

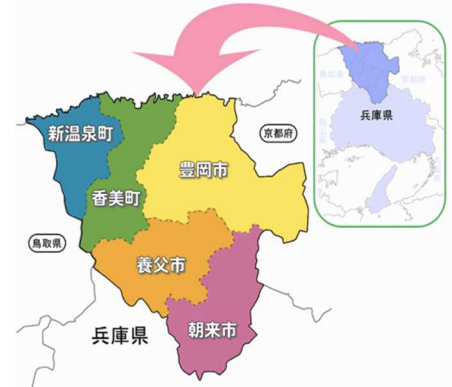
【事例発表】

団体名：特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお

多文化共生のまちづくり「あいうえお子育てネット～但馬をつなぐ～」

《活動目的》

豊岡市また兵庫県北部但馬地域で暮らしている外国にルーツを持つ人々に対して、日本語教室および生活支援に関する事業を行っています。国籍に関係なく、同じ地域に住む住民の一員として、お互いに助け合って暮らしていける多文化共生のまちづくりに寄与することを目指します。



《具体的な活動》

☆日本語教室

初級～上級、日本語能力試験対策、子育て支援、ビジネスなど（平成28年度634クラス）

☆外国にルーツを持つ子どもとその家族の支援

教科学習支援、放課後支援、進路相談、多文化共生サポーター調整など

☆日本文化体験・地域のひととの交流

あいうえお茶会（年間11回開催）、夏休み子ども英会話教室、中国語サロンなど

☆楽しく集い、何でも相談できる居場所づくり

多文化共生マネージャーによる生活相談、就職支援、防災セミナー、通訳・翻訳など



《団体紹介》

平成24年12月設立。ボランティアスタッフ約20名（うち事務局2名）

平成28年度賛助会員：個人128名、法人18団体、学習者数：116名（24ヶ国）

連絡先：特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお
住所：〒668-0055 豊岡市昭和町2-50 河本ビル102
TEL/FAX：(0796)20-4037
E-mail：aiueo_nihongo_toyooka@nike.eonet.ne.jp
ホームページ：http://www.eonet.ne.jp/~aiueo-nihongo
Facebook：Nihongo Toyooka AIUEO



「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム B

第1日目
パネル展

事業実施概要

事業名称	多文化共生のまちづくり「あいうえお子育てネット～但馬をつなぐ～」			
地域の課題	近年、結婚して子どもを持つアジア出身の女性が増えており、特に子育てに関する支援の必要性が高まっている。しかし、広い地域に外国人が散住しており、日本語教育を受ける機会に恵まれない人が大勢いる。どこに住んでいても安定した支援が受けられるよう、但馬地域の日本語教室や支援団体の連携・協力が必要である。			
事業の目的	但馬地域に散住している外国にルーツを持つ母親と子どもの日本語教育を支援し、地域で親子が安心して暮らしていけるようにする。但馬地域の5つの市町の協力・連携を呼びかけ、日本語教育の支援体制の充実を図る。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	子育てや学校の言葉を学ぶ日本語教室	名称	但馬地域における日本語教育支援ネットワーク体制整備
	目的	日本での子育ての疑問や不安、ストレスを軽減し、楽しく子育てに取り組めるようにする。	目的	但馬地域にある日本語教室のネットワークを作る。それぞれの日本語教室の課題等を共有、解決方法を探るなど、日本語教室のブラッシュアップを図る。
	内容	学校や地域からの配布物が自分で読めるように日本語を学ぶ。先生や他の保護者とのコミュニケーションが円滑に行えるための日本語を学ぶ。	内容	特定非営利活動法人シェイクハンズと連携し、セミナーを開催する。但馬地域の日本語教室を紹介するパンフレットをやさしい日本語で作成する。
	対象	外国にルーツを持つ母親	対象	日本語教育支援者、行政職員、教職員、在住外国人他
	時間	1回2時間×40回(全80時間)	時間	会議：2時間×2回(全4時間)、セミナー：3時間×1回
	人数	30人	人数	50人
	取組3		取組4	
	名称	多文化共生のまちづくりのためのセミナー	名称	子どもの就学に必要な言葉を学ぶ教室
	目的	子どもの日本語教育支援について理解を深める機会を提供し、よりよい支援体制を作る。	目的	入学前の準備物を説明(レリアア使用)し、就学準備に必要な日本語を覚える。書類やアンケート等の読み書きを学ぶ。母国との文化や習慣の違いを知り、学校生活が円滑に送れるようにする。
	内容	大阪教育大学准教授臼井智美先生によるセミナーを日本語支援者や学校教職員、地域のひとを対象に開催し、安定した支援ができるよう仕組みづくりの必要性を呼びかける。	内容	入学の手引きを一緒に読んだり、入学前の準備物についてレリアアを使って説明したりし、就学準備に必要な日本語を学ぶ。親子で参加してもらい、子どもの日本語力も同時にチェックする。
	対象	日本語支援者、教職員、行政職員、地域住民他	対象	外国にルーツを持つ母親とその子ども及び家族
	時間	3時間	時間	3時間
	人数	100人	人数	50人
連携体制	運営委員会：豊岡市役所、朝来市役所、養父市役所、香美町役場、新温泉町役場、兵庫県但馬県民局、多文化共生サポーター等。広域ネットワークづくり：但馬地域の日本語教室、兵庫県国際交流協会等。			
成果と課題	<p><成果>外国にルーツを持つ人が散住する但馬地域で、また、限られた日本語教室で、外国にルーツを持つ人を有効的に支援していくためには、運営母体などが違っていても、いかに連携・協力して支援を充実させるかという方向性を共有することができた。また、その成果の1つとして、3市2町にある日本語教室を紹介する「たじま多文化共生マップ但馬地域の日本語教室」を作成することができた。</p> <p><課題>行政、教育現場、日本語教室が広域ネットワークの充実・活用を自らの課題として捉え、参加型のネットワークにしていく必要がある。</p>			
参加者の皆様へ一言	但馬地域(3市2町)の行政や日本語教室、多文化共生サポーターなどが協力・連携し、セミナーを開催することにより、「連携」の大切さを共有することができたことは大きな成果である。また、その成果の1つとして、「たじま多文化共生マップ～但馬地域の日本語教室～」を作成したことで、外国にルーツを持つ人を受け入れる教室が、どの地域にもあるということがわかるようになった。支援の届いていない人にもマップを通して、支援体制があるということを知ってもらえるようになることを願っている。但馬地域に日本語教室が初めて設立された平成8年から21年が経過し、長い道のりではあったが、学習者を含め関わった人すべての思いが詰まっている冊子が完成したことは感慨深いものがある。ひとりでも多くの人に但馬の日本語教室を紹介し、支援が充実するよう努めたい。			